第８１回 長崎大学ＦＤ実施報告書

長崎大学 FD（教育革新シンポジウム「アクティブラーニングの勘所」）

【趣　旨】本年度より、ジェネリックスキル育成を目標に長崎大学の教養教育は大きく変貌しています。また大学教育をめぐる情勢としても、昨年３月に中央教育審議会大学分科会の審議まとめ「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」で示されたように、学生の自学自習時間の確保に焦点をおきつつ更なるアクティブラーニングの充実が求められています。

　そこで本シンポジウムは、後期からの全学モジュール科目開始に合わせて、アクティブラーニングのエッセンスを共有するために企画されました。第１部では、大学だけでなく産業界や政府関係機関でも指導経験が豊富で評価の高い羽根拓也氏（株式会社アクティブラーニング）をお迎えし、アクティブラーニングの指導法を分かり易く紹介していただきます。第２部では、本学でアクティブラーニングを実践されている教員お二方から事例報告をいただき、その後全体討論を行います。

【対　象】　全教職員 （とくに教養教育担当者）

【日　時】　平成 24 年７月 14 日（土）13:30～17:15

【場　所】　長崎大学文教キャンパス教養教育講義棟１階 102 室

【内　容】
13:30～13:40　開会挨拶　　片峰 茂・学長
＜第１部＞
13:40～15:10　基調講演「アクティブラーニング指導法」
　　講　師　　羽根拓也氏（株式会社アクティブラーニング代表取締役社長）
15:10～15:25　質疑応答
15:25～15:40　休　憩
＜第２部＞
15:40～16:05　事例報告「外国語教育におけるアクティブラーニング事例」
　　報告者　　劉卿美・准教授（言語教育研究センター）
16:05～16:30　事例報告「看護教育におけるアクティブラーニング事例」
　　報告者　　花田裕子・教授（医歯薬学総合研究科）
16:30～17:10　全体討論　　橋本健夫・大学教育機能開発センター副センター長
17:10～17:15　閉会挨拶　　佐久間正・理事（教学担当）

【主　催】教務委員会

【企画・運営】評価・FD 教育改善専門部会

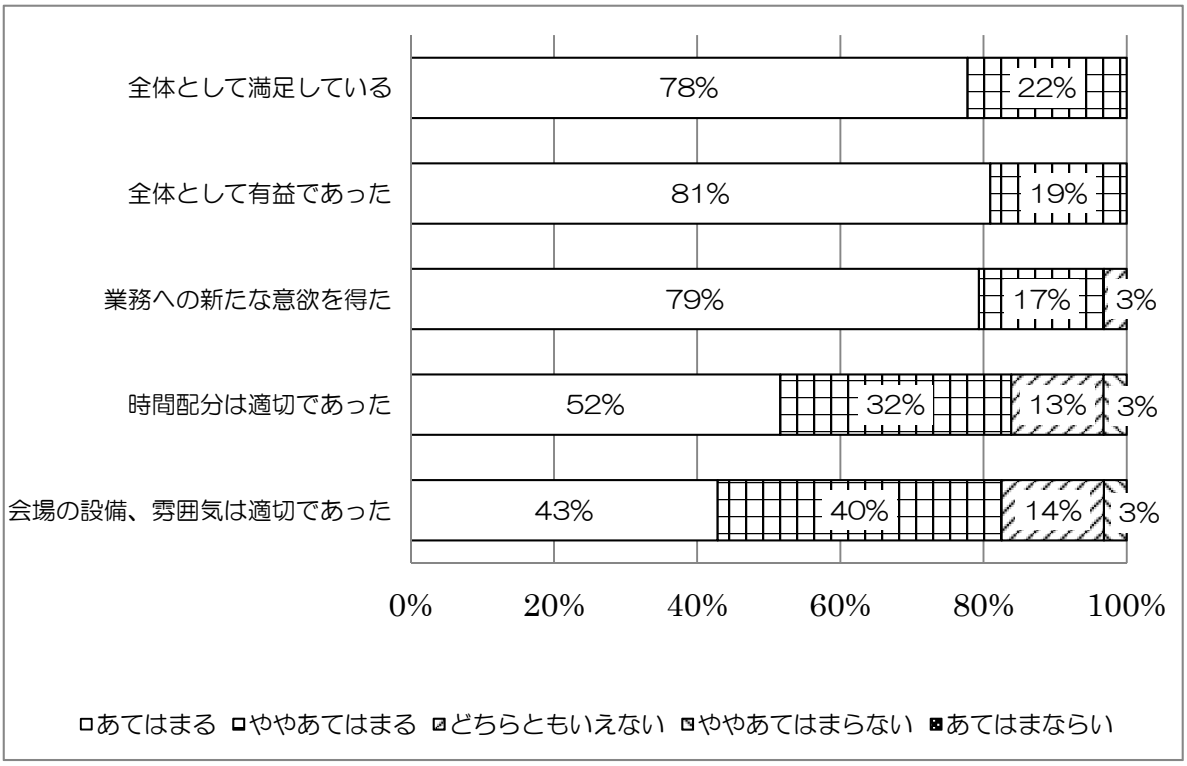
【参加者】

７３名（受講証発行対象者：７２名（学生１名除く））

（内訳）

所　　属	人　　数	
教育学部	5	
経済学部	4	
医歯薬学総合研究科（医系）	7	
医歯薬学総合研究科（保系）	5	
医歯薬学総合研究科（歯系）	4	
医歯薬学総合研究科（薬系）	5	
工学研究科	11	
水産・環境科学総合研究科（環境）	8	
水産・環境科学総合研究科（水産）	2	
国際健康開発研究科	1	
熱帯医学研究所	1	※　学生
病院	1	
先導生命科学研究支援センター	1	
情報メディア基盤センター	3	
留学生センター	1	
言語教育研究センター	4	
附属図書館	1	
国際連携研究戦略本部	1	
核兵器廃絶研究センター	2	
本部	2	
学術情報部	4	※　事務職員
計	73	

【参加者からの評価】



〇アクティブラーニングについて、疑問点や感想、ご意見などがありましたら、ご記入下さい。

・フィールド（実習）での実践はどうすればよいか？（口頭質問で行うのか？）正解がわかっていないものへの対応法はどのようなものがあるか？　何才からでもアクティブラーニングは可能なのか？（医学部・准教授）

・グループワークやペアワークにおいて活発でない学生のモチベーションはコントロールできるのか？ペアの相手によっては、相方のモチベーションが下がらないか？学生同士のディスカッションが本来の目的とは異なる方向に向かっている時、導くべきなのか、あくまで主体性を尊重するのか？（医歯薬・助教）

・アクティブラーニングと e-ラーニングをどう組み合わせていくのでしょうか？私はまだ e-ラーニングを実践しておりません。（国際連携研究戦略本部・助教）

・やる気のない学生をどのようにアクティブラーニングに乗らせるかが問題ではないだろうかと思う。（薬学部・教授）

・羽根先生の資料がほしかった。後日スライドデータを頂ければと思う。事例の時間配分が適切であるかどちらとも言えない。（医歯薬・教授）

・羽根氏の話を聞いて Active Learning に対する壁が低くなったと感じた。（工学研究科・准教授）

・漠然としていたアクティブラーニングが、今日の羽根先生の御講演を拝聴し、明解に理解できました。（工学研究科・教授）

・大人数でもアクティブラーニングが可能であることが分かった。工学部の専門教育あるいは基礎教育（数学・物理）でアクティブラーニングに例があれば聞きたい。丁寧な教科書（自作）を用いているが、問題があるとは思えない。授業終了後及び卒業後も含め後で学ぶときの例を考えると、問題はそれを利用した授業中に学生をどのようにしてアクティブにさせるかだと思う。（工学研究科・教授）
・求められる人材が大きく変化していること、米国の大学生の独立心の高さが強く印象に残った。日本人も本質的に創造性を有するはずだが、それが引き出されていない。学生教育ばかりでなく社会の仕組みの中でも個々の能動性を引き出す必要がある。そこで、創造性を引き出すアクティブラーニングの話を聞きたい。（医歯薬・教授）
・アクティブラーニングの具体的な方法が聴けるかと思ったが、そうでもなかったのが少し残念だった。しかし多人数でアクティブラーニングをする方法のヒントがもらえたのは良かった。次は羽根講師が具体的にどのような授業を行ってアメリカの学生の評価を得たのかを話してほしい。内容的にはあまり新しい視点を感じることができなかったが、よくまとまっていて分かりやすく話し方も上手で見習うべき点が多かった。
・内容そのものは教育現場のみならず、様々な分野で活躍できる一般性のあるものだと感じたので、教員のみならず、他の職員にも門戸を広げて参加させても良いのではないかと感じた。（歯学部・技術職員）
・学生の実習の担当として現実には難しいとは思うが、取り入られる部分もあり、能動的に記憶に残る実習にもっと取り組みたいと思いました。（医学部・教員）
・active learning はいろいろな方法があると思うが、e-learning との活用と関連性についてどのように考えればいいか。active は能動的ということかもしれないが、生きた授業という意味もあるのだろうと感じた。（医学部・教授）
・我々がうけた 25 年ほど前の講座は、問題があったのだろうか？そうは思っていない。アクティブラーニングの具体的手法を導入することが「考える力」を育てることになるのかについては、疑問に思っている。（水産学部・准教授）
・今後も事例紹介等の機会を設けてほしい。（工学研究科・教授）
・毎回書いているが、現在の教養教育の問題点が Active Learning だけで解決するのか。他のことへも注目したＦＤが必要ではないか。(工学研究科)
・学習のタイプや学びのプロセス・脳の働きについての説明はとてもわかりやすかった。（留学センター・准教授）
・コミュニケーションカードを使えばアクティブラーニングになるとは思わない。講義内容をどのように変えたのか説明してほしかった。欠席者に対するフォローはどのようにしているのか（テキストを自分で勉強できない）。「シネサイキ・・・」の講義の仕方は良く分かったが、通常の学部の講義への活用方法は思いつかない。（工学研究科・准教授）
・アクティブラーニングのみならず、学生教育に対して不勉強であることを実感しました。(環境科学部・教授)
・アクティブラーニングはいろいろ考え方があると思います。教員一人一人が個々の型を見つけるこ

とが重要だと思う。（大教センター・教授）
・大変参考になりました。（核兵器廃絶研究センター・教授）
・アクティブラーニングとは、能動的に学ばせるしかけを、授業時間の中に、また、単元時間の中に取り入れること、と理解してよいのだろうかと途中でよくわからなくなった。（教育学部・准教授）
・なるべく自分の授業に取り入れようと思いました。（歯学部・教授）
・授業研究に活かしたい。（教育学部・准教授）
・教育効果を上げるために必要である。（工学研究科・教授）
・アクティブラーニング自体には様々な手法があり、担当する授業によってどの手法が一番適しているのか差があると思う。せっかくのＦＤなので、アクティブラーニングの手法を紹介するのであれば、教員がそれぞれの手法を実感できるような構成にしてはいかがでしょうか。（広報戦略本部・教授）
・守破離の中の破離に相当するアクティブラーニングの方法を聞きたい。（医歯薬・教授）
・韓国語（外国語）教育でのゆう先生の教育方法、自分で考えさせること、毎回の授業評価実施を根本的に改革されていることがわかった。授業の形を変化させていくことは同感である。全体討論、ゆう先生の「自分から見た日本の教育（附属学校ではアクティブラーニングを実施しているのに）は新たなことではないように思える」という意見から、大学の教員になるのに教育実習の必要性を感じた。教員の研究業績中心の評価から教育業績の評価も含めた評価にいく必要性があると思う。（情報メディア基盤センター・教授）
・日本の傾向として、極端な傾向があると思っている。学部によっては専門職を育てるために”守”である基礎教育を重視する学習の比重が高い。いわゆるアクティブラーニングがふさわしい内容とそうでないものの区別をしっかりとして取り入れる必要があると思う。米国だけではなく、アジアでも規定の方式で論文を書ける学部生がいるにもかかわらず APA 式も知らない正式な引用方法も知らない学生を育てている現状もしっかり受け止める必要があると考えています。（准教授）
・講演が進むにつれ、自分の日本語の語学力が低いために、たくさんの貴重なアイデアを聞き逃していることに気付かされたが、アクティブラーニングのテクニックを学ぶことができ大変有意義なものとなった。（言語センター）
・とても有意義なシンポジウムでした。（国際連携研究戦略本部・助教）
・羽根先生の講演は非常に興味深かったです。（保健学科・助教）
・大変充実した内容のある FD であった。（医歯薬・教授）
・大変ためになりました。（学術情報部・事務職員）
・先生方がアクティブラーニングを行う上で、何かお手伝いできることはあるでしょうか？（学術情報部・事務職員）
・長崎大学の一般職員が自分の問題として行動を起こさないと、他から置いていかれると思う。（事務職員）
・ICT 活用によるアクティブラーニングを理解できた。（学術情報部・事務職員）

〇今回のシンポジウムの運営に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入下さい。

・今後、何度か開催して欲しい。羽根先生の次のバージョンも是非聴きたい。（工学研究科・教授）

・羽根先生の続編を是非お伺いしたい。（薬学部・教授）

・今後の予定がありましたらお知らせいただきたい。次も聴いてみたい。興味がわきました。（教育学部・准教授）

・羽根先生の時間がもっと多い方が良かったのでは。他の方は別の機会にでもできるので。（工学研究科・教授）

・学生の質向上にとても有意義な講演であった。教える側も改革が必要で、双方で向上していくべきだと思う。（医学部・教員）

・今回のような興味深い企画をどんどん企画してほしい。（水産学部・准教授）

・教室の音響が悪いのか、マイクを通した声がとても聞きづらかった。他の先生方はどうでしょうか。（情報メディア基盤センター・教授）

・最後のディスカッションを聞いて、教員全体の改革が必要であると感じた。（工学部・准教授）

・全体の時間が長かったと思う。（医学部・教授）

・参加する人が決まっていませんか？（大教センター・教授）

・寒すぎ。学内の報告者は自分の教育分野でやったことだけに入りすぎている。もう少し他の教育分野に展開する時のヒントを意識して話してくれるとよい。（工学研究科・教授）

・運営はとても良かったが、全体の時間が長かったので、時間を守って終了できるようにして下さるともっと良いと思う。（准教授）

・多少時間が長いと思う。（教育学部・准教授）

・シンポジウムは時期、内容とも適切であったと思う。（問題は、シンポジウムを欠席した教員へのＦＤ（研修）をどうするかだと思う。）（環境科学部・教授）

・またこのテーマで引き続きシンポジウムを企画・実施してほしい。（学術情報部・事務職員）

【総括】

アクティブラーニング（active learning、以下 AL）の第一人者である羽根氏に、ご自身の経験にも基づき、AL に関する理論や最近の実践を紹介していただいた。羽根氏の聴衆を引き付けるスキルもあり、参加者はアクティブリスニングでき、演習も取り入れた内容のため、AL に対する理解が大いに深まった。このシンポジウムを有益と感じ、業務への新たな意欲を得た教員が多かった。比較的多数の参加であったため、質疑応答や意見交換はやや不活発であった。第二部は、本学教員の事例報告であり、本学での先駆的な AL の取組みを知ることができ、刺激にもなった。ただ、羽根氏の講演の印象が強烈で、本学の取り組みがまだ少ないためか、第二部に対するコメントはやや少なかった。運営面では、全体の時間が長かったという意見も聞かれ、会場の設備や雰囲気に関しても満足度がやや低かった。

羽根氏を再度呼んでほしいというという要望があった。学生の自己学習能力を継続的に強化し、自己準拠的教育、再帰的学習を促進する AL を、私たち教員が効果的に実践し、学生の能動性を促進できるかが課題であるから、単に羽根氏を再度招くのではなく、今回、得たスキルやヒントを基に、各教員が AL を実施し、その経験を基にして、羽根氏の再招聘か、独自の AL ワークショップの実施か、を検討する方が、研修成果を評価、確認しつつ、継続性のある FD になると思われる。